

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.25

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年5月30日 文責:安生昌弘

◆ 一緒に訪れた “吉報”

先日、上町長寿会(他地区の老人会や老人クラブに当たる組織)の鈴木会長さんら役員 3 名の方が来校され、毎年寄贈いただいている会員さん手縫いの雑巾をたくさん届けて下さいました。子どもたちが持参する雑巾だけでは足りなくなってしまう場所の清掃に役立てていきますので、大変助かっております。これが一つ目の吉報でした。



贈呈の写真撮影の後、会長さんが開口一番おっしゃいました。「ある会員さんから『学校に行くなら校長先生に伝えて欲しいことがあるんだ』と言われてきたんですよ」と。私は「えっ、どんなことでしょうか」と、ちょっとドキリとしました。というのも学校には子どもにまつわる色々な情報が入ってきますが、うれしい情報ばかりではないからです。

会長さんは続けました。「実は、子どもたちのあいさつが良いということなんですけど、何が良いかというあいさつの後に続けて、畑仕事をしていた、その人に『いつも暑い中、お疲れ様です』って言うんだと。うれしくなったから校長先生に伝えて欲しいということなんですよ。」私は感激しました。去年の 11 月 15 日の全校集会で子どもたちに「あ・い・さ・つ運動」(「あかるく、いつでも、さきに、つづけて、あいさつしよう。」)の話をしました。中でも「つづけて」とはあいさつに「続けて」一言添えると心のつながりが生まれるよ、という内容だったからです。しっかり話の内容を聞き取り、行動に移してくれている子どもがいると分かり、万歳をしたいほどの二つ目の吉報でした。

◆ 奉仕作業はボランティアの模範

土曜日には、早朝よりの作業、ありがとうございました。草が茂っていると虫が増えて、校庭で活動する子どもたちが刺されることもあるので、気持ちがすっきりするだけでなく、安全面でも大変助かります。



私が小学生の頃、学校の除草は小学生の仕事でした。夏休みの前後に、酷暑の中 1 時間位をかけて全校生で草むしりをしたのを、その辛(つら)さとともに良く覚えています。現在の船引小学校でも 9 月に各学年 1 回のボランティア活動を行っていますが、除草には手が回らないのが現状です。保護者の皆様の作業の様子は機会を見つけて子どもたちに伝え、人の為になる行動の模範として、子どもたちのボランティア教育に活かしたいと考えています。本当にお世話になりました。今後の予定は、8 月 20 日(土)5・6 年生、10 月 1 日(土)1・2 年生となっています。次回以降もよろしくお願いします。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。